

2021年1月31日 嵌植義歯研究所講演会

タイトル 歯科衛生士として知っておきたい全身の健康と口腔衛生管理について

【略歴】

1981年 宮城歯科衛生士学院卒業、
1981年～2003年 国家公務員共済組合連合会病院
2005年～現在 医療法人盟陽会富谷中央病院
現在は歯科衛生士長
2006年 スウェーデン イェテボリ大学歯周病科研修
2007年 日本歯周病学会認定歯科衛生士
2012年 日本口腔インプラント学会専門歯科衛生士
2014年 日本医療機器学会 第2種滅菌技士
2015年 東北大学大学院歯学研究科歯内歯周病治療学分野修士課程卒業
2017年 宮城県糖尿病療養指導士

【最近の執筆・論文】

2019年 ・ CDEJのWEBニュース64号『咀嚼機能を支える口腔健康管理～歯科衛生士のかかわり』
・ 医歯薬出版社『歯科衛生士のための糖尿病予防マニュアル』共同執筆
2020年 ・ 日本歯周病学会学会誌に「2型糖尿病患者の教育入院時におけるヘモグロビン A1c と咀嚼機能および歯周炎との関係：横断研究」論文を発表
・ クインテッセンス出版月刊誌『歯科衛生士』1～3月号「糖尿病診療記録の見方・読み方」連載
・ 医歯薬出版社月刊誌『デンタルハイジーン』8月号特集記事「なんとなく知っている はもう卒業～患者指導に生かす糖尿病の知識」

写真



抄録

歯を失うおもな原因は口腔内細菌感染症である歯周病と虫歯です。数本でも歯を失うと咀嚼機能が低下し舌でつぶして飲み込める軟らかいものを摂取する糖質偏重傾向に陥ります。また咀嚼回数の減少から早食い丸呑みをするようになると食後高血糖を引き起こすこともあり動脈硬化の進行にもつながります。そして咀嚼が少ないほど唾液の量は減少し口腔内の自浄作用が低下し高齢者の場合には誤嚥性肺炎の危険にもさらされてしまいます。このようにオーラルフレイルからフレイルに至ることはこの日本の超高齢化社会の医療費問題にもつながっています。「生きることは食べること」。平均寿命と健康寿命を近づけるために

は生活の基礎となる食事に目を向けなければならないことがわかります。私たち歯科医療者は適切な口腔健康管理によって一生を通じて健全な歯を保ちバランスの良い食事を摂取するために虫歯や歯周病を予防し8028を目標にしていきたいものです。また万が一、歯を失った場合でも長期安定を目指した補綴治療を行うために口腔の衛生的な環境整備は重要となります。今回は歯科衛生士の立場から患者さんの一生を通しての健康管理教育を行うことの意味と健康寿命延伸のための口腔衛生管理についてお話しさせていただきたいと思います。